

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

興味をふくらませて～マイ図鑑作り～／さいたま市立美幸保育園

野菜作りに興味をもった子どもたちは、育てている野菜が、「何色の花が咲くの?」「いつ実が生るの?」と、興味を広げていきます。そして、育てている野菜のことをもっと知りたくなった子どもたちが、野菜の生長をよく観たり、図鑑で調べたりするようになります。更に自分のオリジナル図鑑を作り始めるなど、野菜への興味をふくらませていく姿には、どのような「科学する心」を読み取ることができるでしょうか。



○ 「マイ図鑑作り」5歳児

年度当初、5歳児に「年長組になってやってみたいこと」のインタビューをしたところ、「野菜作りをしたい」という意見が多かった。昨年度の5歳児が野菜作りをしていた姿を見て、憧れていた様子だった。

野菜作りを「今度は自分たちができる」という期待や誇りで、ワクワクしていると感じた。

子どもたちが、何度でも繰り返し関わるができるように、身近な場所に畑を作った。クラスで、野菜の苗を植えると「どうしたら育つのだろう?」「調べたい!」という声が自然に挙がり、興味をもち始めた。

苗植え後、最も早く花を咲かせたのはピーマンだった。5月中旬、ピーマンの花が咲いていることを発見した子どもたちは、その目に見える生長に喜びの声を挙げていた。「先生!ピーマンの花が咲いているよ!」と教えに来てくれた子どもたちに、保育者が「ピーマンの花は何色だった??」と尋ねると、Aちゃんは、花を見て「白だった!!」と言った。そして、子どもたちに、「じゃあキュウリやトマトとかの、他の野菜は何色の花が咲くだろうねー」という疑問が生まれた。

子どもたちは自ら「調べよう!」と言って、部屋にあった“自然図鑑”という本を出してきて、その日じっくり見ていた。

しかし、そこには野菜の栽培についてのことが書かれていなかった。そのため、次の週保育者は、野菜の生長の仕方や栽培方法が載っている図鑑や、食べ物の働きが書いてある食育絵本などを保育室に用意しておいた。すると、子どもたちから自然に「キュウリの花の色調べよう」「トマトはいつできるのか調べよう」と、野菜の生長の様子に興味をもって、絵本や図鑑を見る姿があった。

さらには、絵の得意なBちゃんが「私の図鑑作るの」と、紙を折って絵本のようにした。そこに図鑑の絵を写したり、本物を見に行ったりしながら、色を塗り、字を書いてマイ図鑑を作った。このことをきっかけに、マイ図鑑作りがクラスに広がっていった。その後、キュウリの花を見たBちゃんは、「やっぱり黄色だった!調べた通りだった!」と嬉しそうに話していた。

また、この後クラスでは、野菜作り以外にも、恐竜や昆虫、花、人体など、自分の興味のある分野の「マイ図鑑」作りが広がっていった。



✦ 考察

この子どもたちは、「ピーマンの花は白かったけど、他の野菜の花は何色なのかな?」という疑問をもち、抱いた疑問を「調べる」という方法で解決しようとした。調べる意欲をもった子どもたちに、後は調べるための環境を保育者が用意することで、そこからは自然と図鑑作りが始まった。

自分が調べたことを表現し、図鑑という形に残そうとしていた子どもたちだった。また、調べたことで、それが本当かどうかを確かめようとし、再び野菜を観察する意欲へと繋がっていると感じた。実物と図鑑等の資料を見比べ、往復すること

で、その子なりに興味や知識を深めるとともに、野菜のことをもっと知りたい・工夫して図鑑を作りたいなどの意欲を高めていった。

無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」